

## 新型柱・床ほぞ加工機で時短

仕様変更しないため、早期に手当て

村上木材・プレテック

村上木材（大阪市、司社長）の新型柱・東  
佐原謙次社長）は、4 ほど加工機（MHG—  
月にグループ会社でブ M4、宮川工機）を稼  
レカット加工を行うブ 働させ、今月中旬に同  
レテック（同、矢山勝 加工機をさらに改造し

ただし、戸数では1799戸（同5・3%減）になった。加工実績の内訳は、注文住宅が62%、戸建て分譲は26・7%、賃家3・1%、非住宅8・2%の割合だった。なかでも戸建て分譲が好調だつた。

で、一部の木材（特殊サイズ物や高強度材など）は納期のめどが立たない状況に追い込まれている。しかし、材の手当ての3分の1が住宅メーカーからの支給のため、ほかのプレカット会社よりは自社で集荷する分が少ないことや、図面変更につ

ながるため、できるだけ部材の仕様変更（代替）をしないで済むよう早期に外材集成材などの手当てを進めた。その結果、工場稼働率を大きく減らさずに済んでいる。ただし、間柱は再生端材（F/J）なども利用して

でき、加工能力も従来の目標を達成。生産50000坪から、約10%増加の55000坪と生産性が向上した。プレテック大阪工場の2020年度加工実績は、6万4043坪（前年度比1・2%増）。

プレテックに増設された柱・束加工機

でき、加工能力も従来の目標を達成。生産50000坪から、約10%増加の55000坪と生産性が向上した。プレテック大阪工場の2020年度加工実績は、6万4043坪（前年度比1・2%増）。